

研究課題名 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術の有用性に関する臨床研究
—後ろ向き多施設共同研究—

研究責任者名 広島大学大学院医系科学研究科消化器移植外科学 教授 大段 秀樹

研究期間 2019年11月14日(倫理委員会承認後)～2024年3月31日

対象者

2014年4月から2016年3月の間に、広島大学病院消化器移植外科で胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術を受けられた患者。

意義・目的

リンパ節転移を伴わない、あるいはその確率が低い胃粘膜下腫瘍(消化管間質腫瘍や

神経鞘腫、平滑筋腫、神経内分泌腫瘍など)に対し、2008年、腹腔鏡内視鏡合同手術: Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery(LECS)が発表され、2014年に本手術は保険収載されました。この手術は腫瘍を腹腔鏡と内視鏡で観察し、腫瘍の全貌を把握し、切除範囲を最小限にすることで、胃の変形を予防する方法となります。現在では多くの施設で本手術の導入が進み、胃粘膜下腫瘍の治療法の一つとなっています。本研究の目的は、胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術に関する多施設調査を行い、

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

Tel: 082-257-5222

広島大学大学院医系科学研究科周手術期・クリティカルケア開発学 教授 田邊 和照

研究機関：広島大学